鎌倉の埋蔵文化財19

Buried Cultural Properties in Kamakura 19

平成26年度発掘調査の概要

平成27(2015)年12月

鎌倉市教育委員会

～ごあいさつ～

私たちが暮らす鎌倉市は、源頼朝が武家政治を創始した地として知られ、中世に栄えた都市の跡をはじめとして、過去の人々の様々な生活の痕跡が地下に埋蔵文化財として数多く残されています。

これらの埋蔵文化財は、家屋の建築や、開発事業などさまざまな土木工事により失われてしまうことも少なくありません。これは、鎌倉の貴重な歴史遺産が失われることでもあり、非常に残念ではありますが、現代に生きる私たちが生活を営んでいく上では避けられないことでもあります。

このようにやむを得ず失われることとなる歴史遺産も、発掘調査を実施し、その調査成果と記録を着実に積み重ねて検証していくことで、鎌倉の歩んできた歴史の解明につながっていきます。

鎌倉市教育委員会では、発掘調査関係者のご協力を得ながら、本『鎌倉の埋蔵文化財』の発行をはじめ、遺跡調査速報展や鎌倉駅地下道ギャラリーでのパネル展、遺跡調査・研究発表会の開催などを通じて発掘調査の成果を広くご紹介しています。

このたび発行いたします『鎌倉の埋蔵文化財19』では、平成26年度に実施した発掘調査の中から、6つの調査地点の概要をご紹介いたします。

これからも、さまざまなかたちで発掘調査の成果をご紹介するよう努めてまいりたいと考えております。今後とも、文化財保護に対するご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

平成27(2015)年12月　鎌倉市教育委員会

～目　次～

1　大倉幕府跡　(雪ノ下三丁目628番1地点)…… 1
2　若宮大路周辺遺跡群　(小町二丁目33番4地点)…… 4
3　長谷小路周辺遺跡　(長谷二丁目148番1の一部、148番3、149番1地点)… 6
4　台山遺跡　(台字西ノ台1418番10地点)…… 8
5　今小路西遺跡　(由比ガ浜一丁目160番8、10地点)…… 9
6　若宮大路周辺遺跡群　(小町一丁目324番4地点)…… 10
英文要旨…… 12

～例　言～

◎本書は平成26年度に市内で実施した主な遺跡の発掘調査の概要を掲載しました。

◎本書は鎌倉市教育委員会文化財課が執筆・編集しました。

◎本書の作成にあたり、次の方々のご協力をいただきました。深く感謝いたします。(50音順・敬称略)

齋木秀雄(有限会社鎌倉遺跡調査会)・滝澤晶子(株式会社博通)・宮田眞(株式会社博通)

独立行政法人国立文化財機構　東京文化財研究所

《表紙写真》　大倉幕府跡(雪ノ下三丁目628番1地点)　出土　銅鏡　X線透過写真

独立行政法人国立文化財機構　東京文化財研究所　撮影

◎表紙題字は松尾右翠氏にお願いしました。

1．大倉幕府跡（雪ノ下三丁目628番１地点）

Okura-Bakufu-Ato Site

銅で作られた鏡を発見

調査地点は鶴岡八幡宮境内から東に直線距離で300mの場所に位置し、13世紀～15世紀にかけて使われた道路跡や溝などがみつかりました。調査地の南側を通る県道204号（金沢・鎌倉）線は鎌倉時代には六浦道と呼ばれ、鎌倉から朝夷奈切通を通り金沢へ至る幹線道路でした。調査区の南端部で発見された道路は中世の六浦道と考えられます。中世以来何度も補修・改修されながら、現在の県道に引き継がれているものと考えられます。

また、道路の北側には道路と並行する柱穴や土坑、道路の側溝と思われるＶ字状の溝が確認されており、鞴の羽口や滓が出土していることからここで鍛冶を行っていた人々が活動していた可能性があります。

また、裏面に雅楽で用いられる楽器や道具類の文様が表された銅鏡（表紙・写真２・３）が出土しています。これまで発見された銅鏡の文様は鳥や草花が多く、今回発見された文様の銅鏡は全国的にも珍しいものです。

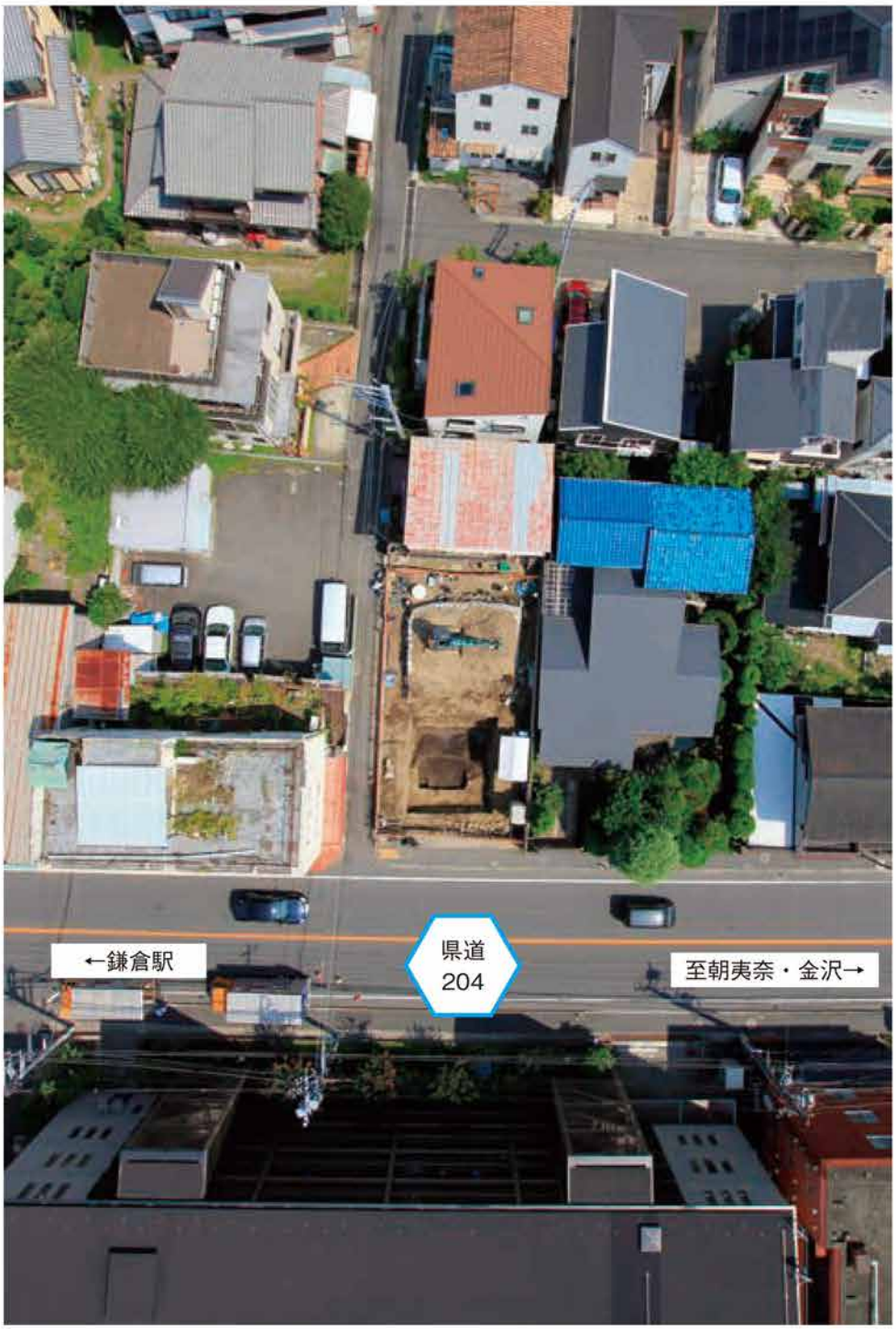

写真１　調査地上空から撮影　写真中央が調査地点（上が北）
(Photo1) Aerial photograph of the excavated point

鞴…炉に風を送る器具です。近世まで町の小さな鍛冶屋や鋳造などでは、木製の箱状の鞴（箱鞴）が使われていました。

羽口…鞴の送風口で炉に最も近づく筒状の部品です。

滓…鍛冶を行うと生じる金属クズを指します。

写真２
出土した銅鏡
(Photo2)
Bronze mirror

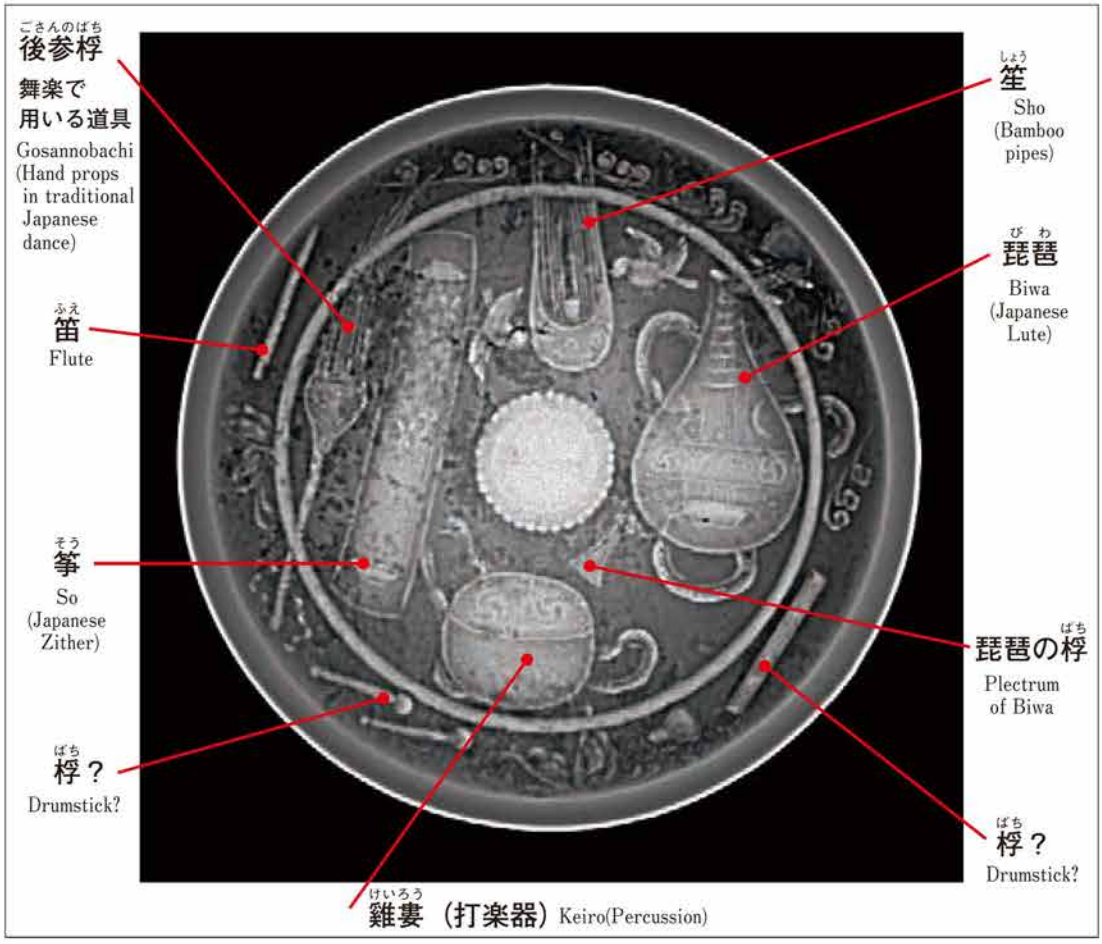

写真３
道具の名称
(Photo3)
Names of
instruments

参考文献
明治図書出版株式会社　1957 年
『新訂増補故実叢書　舞楽圖説』

写真４　溝と柱穴列の検出状況（写真左が北）
(Photo4) Ditch and lines of pole pits

写真５　発見された道路跡　（方形の深い部分は近現代に掘られた穴）
(Photo5) Street

2．若宮大路周辺遺跡群（小町二丁目33番４地点）

Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site

火災にあった屋敷地

調査地点は鶴岡八幡宮三の鳥居から南西に約350mの場所に位置します。13世紀～14世紀の屋敷地が発見され、比較的短期間に建て替えや整地がおこなわれていたようです。屋敷地は道路や溝で区画されており、それぞれの敷地で建物跡などが確認できました。

発見された溝は板や杭で護岸されていましたが、部材の一部に焼け焦げた跡などが残っていました。また、建物の礎石にも熱割れが生じていたことから、火災にあったと推測されます。この火災が原因となり、建物の建替えが行われたと考えられます。

道路は一部が調査範囲の外にのびていたため、正確な幅はわかりませんが、北側には側溝と思われる溝が並行して造られていました。過去に近隣で行われた発掘調査でも、この道路と平行、もしくは直交する区画溝や道路が確認されています。今後、この一帯における当時の町割りの復元に向け、参考となる成果となりました。

図１　遺構配置図　14世紀
(fig1) Remains layout　14th century

写真６　護岸された溝跡
(Photo6) Reinforced ditch

写真７　道路跡
(Photo7) Street

写真８　道路跡（左）　溝跡（中央）（写真７の道路跡より古い時期の道路跡）
(Photo8) Street (left), Ditch (center)

3．長谷小路周辺遺跡（長谷二丁目148番１の一部、148番３、149番１地点）

Hasekoji-Shuhen-Iseki Site

文字が書かれた土器の発見

調査地点は江ノ島電鉄の長谷駅と由比ヶ浜駅の中間あたりの線路沿いに位置します。調査地付近は海から風で運ばれた砂で土地が形成されていて、多くの人が砂の地面で生活を営んでいたと考えられています。今回の調査では９世紀の河川跡や13世紀の建物跡、土器・骨が捨てられていた土坑などが発見されました。河川の跡からは平安時代の土師器や須恵器※、瓦、金属製品、木製品、骨製品など様々な種類の遺物が大量に出土しました。出土した土器の中には、表面に文字などが書かれている墨書土器もあり、「上」「坏」「酒」などの漢字のほか、菊の花のような文様が描かれたものがありました。

土器片は川を流れてくると割れ口がすり減って丸くなりますが、今回出土した土器はすり減っていなかったため、遠くから流れてきたものではなく、河川を埋めるときに一緒に埋まったものと考えられます。近隣の発掘調査により、当該地の東には平安時代の集落が広がっていたことがわかっており、今回出土した土器はその集落で使われていた可能性があります。この時代の墨書土器がまとまって出土するところは官衙（役所）の跡などが多く、一般の集落ではあまり出土しません。東側の集落には御成小学校跡で発見された鎌倉郡衙に関連する施設があったことも推定されます。

※土師器と須恵器について13ページに記載しています。

写真９　墨書土器（須恵器「□（寺か）酒」）（左上）
(Photo9) Earthenware"Sueki"(upper left)
写真10　墨書土器（土師器「坏」）（右上）
(Photo10) Earthenware"Hajiki"(upper right)
写真11　墨書土器（須恵器「上」）（右下）
(Photo11) Earthenware"Sueki"(lower right)

写真 12　墨書土器（須恵器「 」）
(Photo12) Earthenware"Sueki"

写真 13　墨書土器（須恵器「菊の花のような文様が描かれている」）
(Photo13) Earthenware"Sueki" (Chrysanthemum patterns were drawn on it.)

4．台山遺跡（台字西ノ台1418番10地点）

Daiyama-Iseki Site

古代鎌倉の住居跡

調査地点はJR北鎌倉駅から300mほど西の丘陵上に位置します。台山遺跡ではこれまでも鎌倉時代以前の縄文時代～平安時代の各時代の住居跡が発見されています。

今回の調査の結果、古墳時代後期（7世紀頃）の住居跡がみつかりました。煮炊き用のカマドが備え付けられていたことから倉庫などの物置ではなく、住居として利用されていたと推測することができます。

調査範囲が狭く、住居跡の全容はわかりませんでしたが、丘陵上に広がる集落の様子を新たに確認することができました。

図２　遺構配置図
(fig2)　Remains layout

写真 14　調査風景
(Photo14)　Excavation scene

5．今小路西遺跡（由比ガ浜一丁目160番８、10地点）

Imakoji-Nishi-Iseki Site

土器に描かれた顔

調査地点は鎌倉市中央図書館から南西に約150mの場所に位置し、13～14世紀の道路や建物跡、土坑などがみつかりました。

火災の跡か何かを焼いた跡かは判断できませんが、大量の炭化物が調査区全域で確認されました。

発見された道路は南北方向に造られ現在の周辺の宅地の方向と異なっており、近隣の発掘調査による発見事例も現在と異なる方向の溝や道が発見されていることから、一帯は現在の区画の方向とは異なる町並みが広がっていたと推測されます。出土遺物では人面を線刻で表現したかわらけの破片が見つかりました。中世の出土遺物としては全国的にもほとんど例のない珍しいものです。

写真 15
人面が描かれたかわらけ
(Photo15) Human face drawn on a Kawarake

図３　実測図
(fig3) Survey drawing
縦 5.2cm、横 3.4cm、厚 1cm

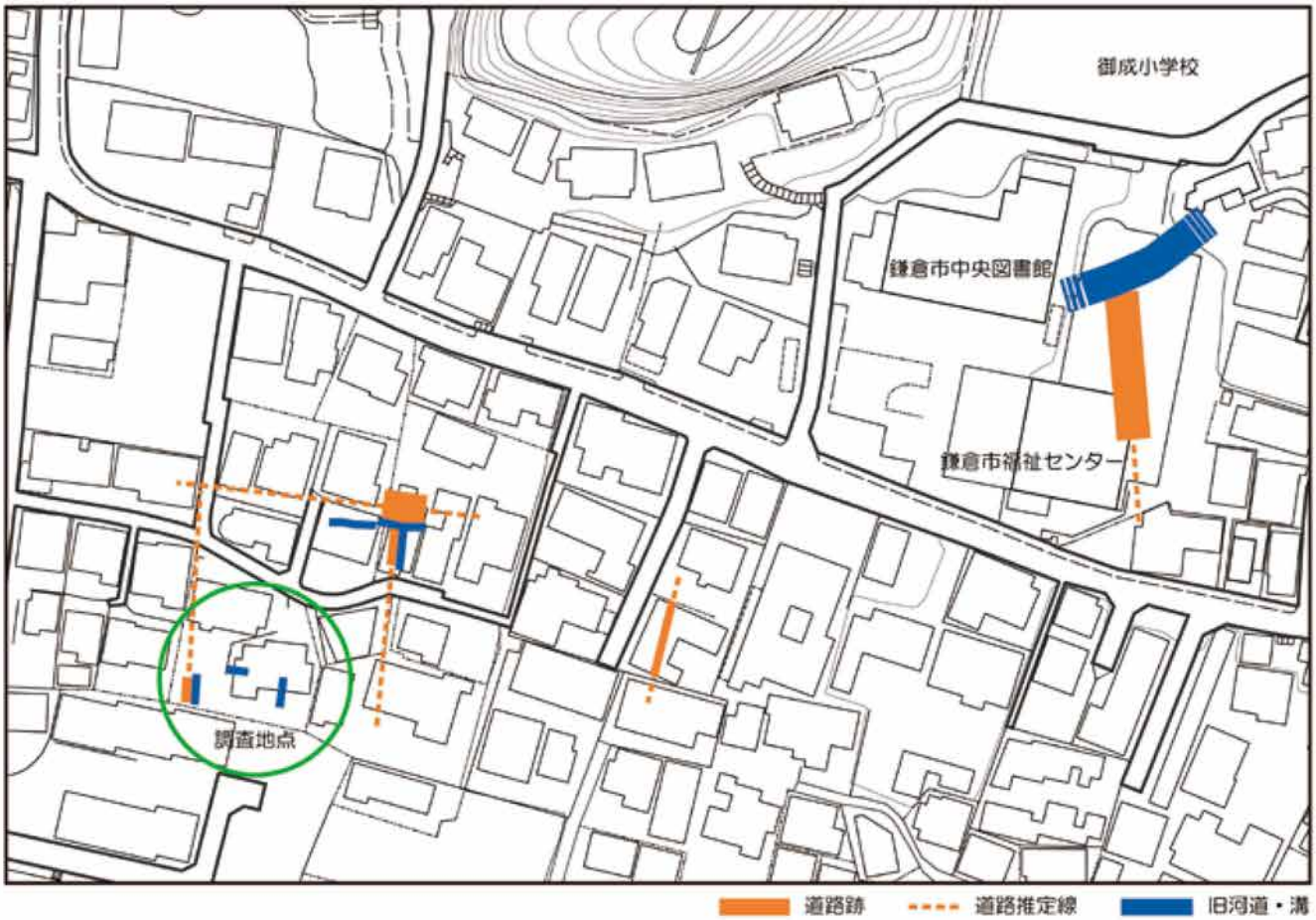

図４　本調査地点と周辺の発掘調査で発見された道路跡・溝跡（縮尺：約 1/1500）
(fig4) Excavated point and discovered street and ditch

6．若宮大路周辺遺跡群（小町一丁目324番４地点）

Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site

石敷の建物跡

調査地はJR鎌倉駅から東に約250mの場所に位置し、13～14世紀の建物跡、土坑、溝跡などが発見されました。建物跡は切石を床に敷くものや、角材を土台としたものなど、数種類がみつかりました。

出土遺物では火打石によく使用されている石材がみつかりました。石材は、大きさや形がそろっておらず、破片のようなものもありました。火打石は決まった形がなく、持ちやすい形であればわずか数cmでその機能を果たすため、製作にあたって試行錯誤を繰り返していたことが推測されます。

ここで火打ち石を製作していたとも考えられ、13～14世紀の建築物の構造や使用用途を考える上で貴重な成果が得られました。

写真 16　床に敷いた切石と板材の検出状況
(Photo16) Stone floor and lumbers

写真 17　建物の検出状況
(Photo17) Building

写真 18　床に敷いた切石と角に組まれた切石
(Photo18) Stone floor and assembled stones

写真 19　建物の基礎と一緒に発見された陶器
(Photo19) Foundation of the building and earthenwares

Buried Cultural Properties in Kamakura 19

1. Okura-Bakufu-Ato Site (Yukinoshita 3-628-1)

Discovery of bronze mirror

The excavated point is 300m east from Tsurugaoka-Hachimangu Shrine. We discovered a street and ditches of the 13th-15th century. The street is estimated to be the medieval Mutsuramichi-Highway.
A relic which suggests that there may have been blacksmiths was discovered also.
A bronze mirror engraved with patterns of the Gagaku instruments (Front cover, Photo 2. Fig. 1) was excavated. Its design is rare, while the patterns of birds and flowers are often found.

2. Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site (Komachi 2-33-4)

Burnt mansion site

The excavated point is 350m southwest from San-no-torii (the third torii gate of Tsurugaoka-Hachimangu Shrine). The remains of mansion of the 13th - 14th century were excavated. They are compartmentalized by streets and ditches.
There are singes on the covers of the ditches and cracks in the foundation of the building. They suggest that the building was destroyed by fire and rebuilt later.
The remains of ditches and streets were also found in the neighborhood in the past, and possibility of revealing the town lots of the Middle Ages is increasing.

3. Hasekoji-Shuhen-Iseki Site (Hase 2-148-1,2-148-3,2-149-1)

Discovery of characters on earthenwares

The excavated point is on the Enoshima Electric Railway line, in the middle of Hase Station and Yuigahama Station. It is in a sandy area in which a lot of people lived in the past. The trace of river of the 9th century and the remains of buildings of the 13th century were discovered. We excavated a lot of relics of the Heian Period. The earthenwares which Chinese characters and floral art was drawn on by Japanese ink were discovered there too.
They might be used by who lived in the Heian Period settlement in the east side of the excavation site. Such earthenwares are seldom detected in a settlement of this period. This discovery suggests that some facilities related to Kamakura-Gunga (ancient government office), which was excavated in Imakoji-Nishi-Iseki site, were in the settlement.

4. Daiyama-Iseki Site (Dai-aza-Nishinodai 1418-10)

Ancient residence site in Kamakura

The excavated point is located on a hill, 300m west from Kitakamakura station.
As a result of this investigation, a residence site of the latter part of the Kofun Period was discovered. We confirmed remains of a settlement on the hill anew, while the whole picture of the site could not be revealed because of the limited scope of excavation.

5. Imakoji-Nishi-Iseki Site (Yuigahama 1-160-8,1-160-10)

Human face engraved on earthenware

The excavated point is 150m southwest from Kamakura city central library. The remains of a street, a building and holes of the 13th-14th century were excavated there.
Like the past investigation, this excavation revealed the direction of the street. The Middle Ages cityscape was probably different from current city lots.
We also discovered a very rare Kawarake (disposable small plate) of the Middle Ages. A human face was engraved on it.

6. Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site (Komachi 1-324-4)

Stone floor building site

The excavated point is 250m east from Kamakura station. There were buildings and ditches in the 13th-14th century. We excavated several types of the foundations of the buildings, for example stone floor and square timber.
We also discovered stones which were often used for flints. They are different sizes and some are fragmentary. It suggests that there was flint workshop. These valuable achievements provide with essential information about the structure and uses of buildings of the 13-14th century.

写真 20　扇骨出土状況
「若宮大路周辺遺跡群
小町二丁目 33 番 4 地点」
(Photo20) Bones of a fan

※土師器と須恵器（6 ページ）

古墳時代になると土師器と須恵器という 2 種類の土器が作られるようになります。

土師器は縄文時代から続く製作法で作られた土器の一種です。須恵器は朝鮮半島から伝わった新しい方法で作られた土器です。

土師器はそれぞれのムラで作りますが、須恵器は専用の窯で作る必要があるため、ある程度決まった産地でつくられました。そのため、土師器と比べて須恵器は地域による形の違いが少なく、遺跡の年代を決める上で重要な資料となっています。

	土師器	須恵器
色	赤褐色	青灰色
焼成方法	野焼き （酸化焔焼成）	窯焼き （還元焔焼成）
焼成温度	500℃～800℃	1100℃以上
強　度	軟質	硬質
特　徴	土器を構成する土の中に孔が多数あるため、水分が蒸発しやすい。膨張した空気が抜けるため火にかけられる。	土の中に孔が少ないため、水分が蒸発しにくい。 火にかけると膨張した空気が抜けないため割れてしまう。
主な利用方法	煮炊き、食器等	貯蔵、食器等
作られた時代	3 世紀から 11 世紀頃まで	5 世紀頃から 10 世紀頃まで

本書掲載の調査地点

《掲載遺跡名称及び所在地一覧》

1．大倉幕府跡（おおくらぼくふあと）　（雪ノ下三丁目 628 番 1 地点）
2．若宮大路周辺遺跡群（わかみやおおじしゅうへんいせきぐん）　（小町二丁目 33 番 4 地点）
3．長谷小路周辺遺跡（はせこうじしゅうへんいせき）　（長谷二丁目 148 番 1 の一部、148 番 3、149 番 1 地点）
4．台山遺跡（だいやまいせき）　（台字西ノ台 1418 番 10 地点）
5．今小路西遺跡（いまこうじにしいせき）　（由比ガ浜一丁目 160 番 8、10 地点）
6．若宮大路周辺遺跡群（わかみやおおじしゅうへんいせきぐん）　（小町一丁目 324 番 4 地点）

鎌倉の埋蔵文化財 19

発行日　平成27(2015)年12月31日
編集・発行　鎌倉市教育委員会
〒248-8686　鎌倉市御成町18番10号
TEL：0467(61)3857　FAX：0467(23)1085
E-mail：bunkazai@city.kamakura.kanagawa.jp
印刷　株式会社ポートサイド印刷